

第2回 患者の安全に関するセミナー 医療施設における安全対策推進システムの構築に向けて

日時：平成12年9月2日(土)午前9時30分～午後3時 場所：日本医師会館 大講堂

会長挨拶

坪井栄孝 日本医師会会長

今年の7月16日に、第1回の「患者の安全に関するセミナー」を元アメリカ医師会会長で、前全米患者安全基金会長のナンシー・W・ディッキー先生にお越しいただいて開催し、非常にたくさんの方々にご参加いただきました。そのときに、なるべく早い時期に第2回セミナーを開くとのお約束をいたしました。それが本日実現いたしました。全米患者安全基金の理事長をされているジョアンヌ・ターンブル先生をお招きすることができました。

今朝、この会場に参ります前に、ターンブル先生といろいろとお話をする機会がありました。今、日本のマスコミで騒がれている医療事故の記事に、われわれは非常に胸を痛めておりますが、ちょうど5年前、アメリカも同じような状況であったというお話でございました！アメリカがくしゃみをするとうちはかぜを引く」というジョークほどではないにしても、われわれにとっては大変良いお手本があるわけですから、これを活用することが患者さんのためには絶対必要であろうと思っております。

医療事故を防ぐことは、まさに今年度の日本医師会の事業の大きな柱であると思っておりますので、どうぞ皆様方も高いご見識で研修され、われわれにアドバイスならびにご支援をいただきたいと思っております。

私は、講師のターンブル先生には最初にシカゴでお会いしました。そのときに、アメリカの患者の安全対策を考える集まりと日本の集まりがジョイントしたような会を開きたいと申し上げたところ、即座に「きょうがその第1回目ではないですか」と言われ、大変恐縮したことがございます。その点では、本日のこの「第2回患者の安全に関するセミナー」は、第2回目の全米患者安全基金と日本とのジョイントミーティングということになるのかもしれませんが、いずれにしろ、われわれにとっては大変貴重なお話を伺うことができるわけです。

また今回は、日本医師会医療安全対策委員会委員の先生方にも加わっていただき、皆様方の前で具体的な討論をしていただく予定であります。このような場での討論が良いのか悪いのか、問題はあってもいいかもしれません。しかし、まずやってみることが必要であろう、ということで断を下しました。もし、あまり意味がなかった場合には、私をご叱正いただければと思っております。そのくらいの覚悟で取り組んでおりますので、日本の医療における患者の安全性を

もっと高め、アメリカよりも安全といえるところまで早く到達するためにも、ご協力をお願いいたします。

挨拶が長くなりましたが、皆様方の本日のご参加に対して、主催者として心から御礼を申し上げます。開会のご挨拶にいたしたいと思えます。本日はありがとうございました。

座長挨拶

小泉 明 日本医師会副会長

本日は、星常任理事を副座長として、両名でセミナーを進めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日の「第2回 患者の安全に関するセミ

ナー 医療施設における安全対策推進システムの構築に向けて」の進行につきまして、簡単に述べさせていただきます。

午前中は、まずジョアンヌ・ターンブル先生の「システムズ・アプローチ」医療におけるエラーの減少をめざして」と題する基調講演を約90分にわたり拝聴し、その後、日本医師会医療安全対策委員会委員の先生方にも壇上に上がっていただいて、ターンブル先生のご講演について討論をしていただく予定であります。

午後からは、ターンブル先生、医療安全対策委員会委員の先生方と共に、ご出席の皆様方にも加わっていただき、オープン・ディスカッションの形式で討論を行う予定であります。

以上のような次第で進めさせていただきますので、どうぞよろしくご協力のほどお願い申し上げます。